

る (留) 𠄎𠄎𠄎  
 (流) 𠄎𠄎𠄎  
 (累) 𠄎𠄎  
 (類) 𠄎𠄎𠄎  
 れ (礼) 𠄎𠄎𠄎 𠄎𠄎𠄎 𠄎𠄎𠄎  
 (蓮) 𠄎𠄎𠄎  
 ろ (呂) 𠄎𠄎𠄎 𠄎𠄎𠄎 𠄎𠄎𠄎  
 (露) 𠄎𠄎  
 (路) 𠄎  
 わ (和) 𠄎𠄎𠄎 𠄎𠄎𠄎  
 (王) 𠄎𠄎𠄎  
 ゐ (爲) 𠄎𠄎𠄎  
 系 (惠) 𠄎𠄎𠄎  
 (衛) 𠄎𠄎  
 を (乎) 𠄎𠄎𠄎  
 (遠) 𠄎𠄎𠄎  
 (于) 𠄎𠄎𠄎  
 (越) 𠄎𠄎𠄎

11 古文書関連の約物

約物とは、文字組版など言語の記述に使用する記述記号類の総称で、句読点・疑問符・括弧などのことです。

- ①句点(。) 文の終端を意味する。近世にもまれに使用されるが、使用されない場合に翻刻でこれを使うことはない。
- ②読点(、) 一文を意味のある区切りごとに分けるために付けられる。近世にもまれに使用される。翻刻の時には、読みやすくしたり、語句を並列させる場合などに、「凡例」で断って補うことがある。
- ③中点、中黒(・) 翻刻の時に複数の名詞を並列させる場合などに、「凡例」で断って補うことがある。「・」よりも全体が一つの塊である意味合いが強くなる。
- ④踊り字、重ね字、送り字、繰返し符号、反復符号 同の字点
  - 々 同上記号 由来は「同」の異体字である「全」が変化したというものや、「二」の字点に変化したというものなど、諸説ある。
  - 、 平仮名繰返し記号 時々(時々) 部分々々(部分部分)
  - ゞ 平仮名繰返し記号 (濁点) すゝ(すす) くつゝける(くつつける) づゝ(づづ)
  - 、 片仮名繰返し記号 ずゝ(ずず) バナ、(バナナ)
  - ゞ 片仮名繰返し記号 (濁点) ハッナ(ハバナ)
- 二の字点・ゆすり点 ㄣ 二の字点「二」の字を崩した記号。漢字の後に書かれ、上字の訓が繰返し語であることを意味する。現在は小さい「二」の字を崩した記号。漢字の後に書かれ、上字の訓が繰返し語であることを意味する。現在は「々」で代用されることもあるが、本来別のものである。
- 各々(おのおの) ※「各」は「おのおの」と「おの」の繰返し語であることを示すため、ㄣを付す。
- くの字点 ㄣ 二字以上の仮名、もしくは漢字と仮名を繰り返す場合に用いる。古くは、仮名で二音で読む漢字一字の繰返し(「人々」など)にも使われた。
- たびく (たびたび) 見るく (見る見る) 離れぐ (離れ離れ・はなればなれ)
- ⑤庵(いおり)点 歌の始めなどに用いられる。